

産業立地としての群馬の魅力

群馬経済研究所主席研究員 伊勢和広

調査のポイント

産業立地関係の各種データの分析に加え、産業団地の供給者側や県内産業団地に実際に立地した事業者にはアリングを行い、産業立地としての群馬の魅力とともに今後も本県が競争力を保つための課題等についても調査している。

要約

- 経済産業省の「工場立地動向調査」によれば、本県は、2016 年～20 年の累計の立地件数が全国 3 位、立地面積は全国 5 位と、ともに上位にある。
- 業種別では「金属製品」、「輸送用機械」、「食料品」の順に多い。また、地域別では「太田・館林」地域と「前橋・伊勢崎」地域だけで全体の 3 分の 2 を占める。
- 工場立地の好調さの裏返しとして、「産業団地の在庫不足」が課題となっている。
- 本県に工場等を立地した企業のうち 5 社のアリング結果では、本県に工場立地する魅力として、①高速交通網に代表される物流面の利便性、②大市場である東京に近い、③土地価格が比較的安い、④水が豊富である、等が上位となった。
- 一方、本県で足りない部分・要望については、「若手人材が群馬に田舎のイメージを持っており、新入社員募集の際に不利になる」、「周辺人口が少なく、従業員を集めにくい」等の意見があった。